



消防団たずね歩き

震災を乗り越えて～変わりゆく街と共に～

中央消防団第1分団の管轄区域は六甲山・摩耶山麓に広がる街で、急な坂道が多く、元々お寺・病院・学校が多く散在し、その隙間に住宅が立ち並んでいるといった街です。第1分団詰所は市内でも珍しい複数の住民有志から第1分団に昭和45年に寄贈されたもので、街は新しくなり団詰所の周辺も様変わりしましたが、詰所を含む一部の建物だけは昔のまま残っています。

当消防団は地域との関わりの中で企業・病院・マンション・介護施設・住民等と協働で消火訓練や避難誘導訓練をおこなっています。企業や病院・マンション等は耐火造で消防用設備等も充実していますが、介護施設・老人ホーム等は消防用設備等があってもそれだけでは現実的な避難誘導を考えると厳しい状況がうかがえます。

たとえば、2階以上に居る歩行困難者を支援しながら避難誘導する場合、階段が狭い、曲がっている、エレベーターも狭い状況に加えて、夜間の常駐者が少なく迅速な避難誘導が困難と思われます。このような状況を抱えているところが多いのが現状で、消防団としては気付いた点を指摘し、共に対策を考え、施設の安全性の向上のために各種訓練時に指導しています。

第1分団の活動として、火災出動は年間1～2件程度ですが、土砂災害はここ数年の

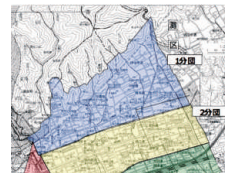
異常気象により局所的に発生しており被害こそ大きくはないものの警戒が必要になっています。特に数年前の大雨の時期に発生した住宅地でのがけ崩れでは、災害出動し土砂を取り除く水防作業をしました。

現在、第1分団員は山崎分団長以下18人で活動していますが、震災当時から団員のほとんどが入れ替わり、その活動を知る団員は現在3人だけになっています。

震災時、第1分団の管轄区域では被災した家屋は少なく、人的被害もあまり無く、けが等で団員が搬送した件数も5件ぐらいでした。

あの阪神・淡路大震災からはや二十数年が過ぎ、大きな被害を受けた街はゆっくりですが新しくなりつつ、そこには新しく入ってきてくれる住民も居ます。消防団も新旧住民が交流しやすい街になるよう対応していかなければならないと考えています。私たち第1分団は、愛着のある詰所と共に、これからも地域の安全・安心のため分団員一丸となって消防団活動に励んでまいります。

(神戸市中央消防団・第1分団員・前分団長・吉田圭男)



地域に根付いた消防団を目ざしています!

～地域住民の安全・安心を確保するために～



神戸市消防局
神戸市消防団

